地域の毎日をつなぐ

路線バス



武雄市 ▶ 市内外各地へ

買い物に　通学・通勤に　通院に

少し遠くまでお出かけに

市内の路線バスは全部で９路線あり、武雄温泉駅を中心に各町を走っています。路線によっては、佐賀市や多久市、伊万里市、嬉野市、鹿島市までつながっており、市外へのおでかけにも便利です。

路線図・時刻表はこちら



ICカードが使えます！

運賃の支払いは現金のほか、全国交通系ICカードなどが使えます。



バスに関心を持ってもらう取り組み

バスに興味や関心を持ってもらうため、昨年のたけおの物産まつりやおひさまフェスタでバスの運転体験を実施しました。

（協力：祐徳自動車）

路線バス TOPIC

路線バスは市内のみならず、市外への通学・通勤の移動手段として、重要な役割を果たしています。バス事業者では、バスを利用しやすくする取り組みとして、「ＩＣカード決済」や「バスロケーションシステム（リアルタイム位置情報）」が導入されています。バスに乗るときは硬貨を用意したり、硬貨がない時に車内で両替したりする手間がかからないので、ICカードはすごく便利です。



インタビュー

利用者の声

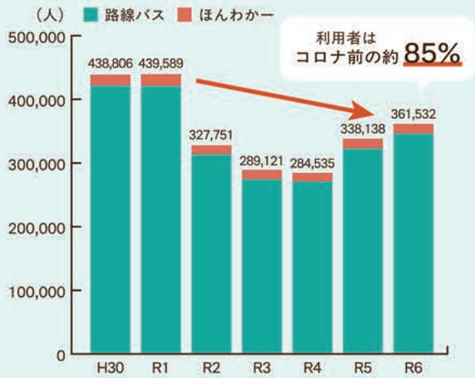


大久保 勝代さん

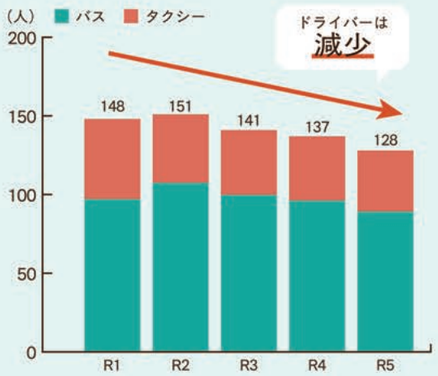
普段から、買い物や通院の際にバスを利用しています。バスはさまざまな場所につながっており、少し遠くへの移動にも利用できるので、とても便利だと感じています。通院の際に一緒になった方からも「バスで来たよ」という話をよく聞きます。運転免許証を持っていない方や返納された方にとって、バスは大切な移動手段になっていると思います。バスを利用する際は、時間に余裕を持って行動するようにしています。車内では景色を眺めながら、ゆったりとした時間を楽しんでいます。分からないことがあれば、運転手さんが親切に教えてくれるので、安心して利用できます。また、バス停まで歩くことは、ほどよい運動にもなり、健康の維持にもつながっています。

●地域公共交通の現状●

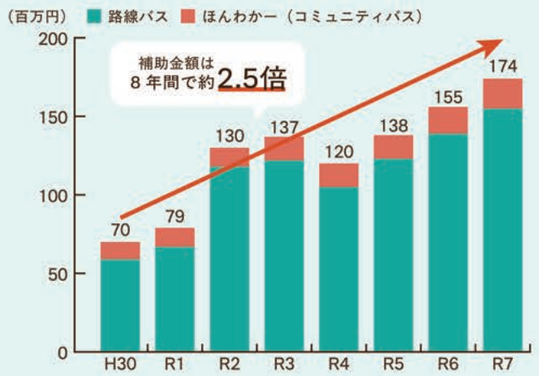
全国的に、自家用車の普及による地域公共交通の利用者数の減少に加え、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の影響で利用者数が急激に落ち込み、現在もコロナ禍前の水準には回復していません。また、バスやタクシーなどの運転手も減少しており、担い手不足が深刻化しています。武雄市でも同様の状況にあり、路線バスなどの利用者数はコロナ禍前の約85％にとどまっています。運転手は高齢化などを背景に減少が続いており、今後は働き方改革の影響もあって、運転手の確保がさらに難しくなることが懸念されています。さらに、路線バスの運行費に対する補助金も年々増加しており、平成30年度から令和7年度までの8年間で約2.5倍となっています。



▲路線バス、ほんわカー利用者の推移



▲バス・タクシードライバーの推移



▲市の公共交通運行費補助金の推移

より便利な交通手段に

地域の公共交通は子どもから大人までどなたでも利用できる身近で大切な移動手段です。
市では、令和７年６月に武雄市地域公共交通計画を策定し、私たちの生活を支える公共交通の維持確保に向けた方針をまとめました。市民の皆さまに利用しやすい公共交通となるような取り組みを進めています。



都市政策課
田中

●市民の声●



※武雄市地域公共交通計画より